

◎今週の御言葉 「教会の誕生～聖霊降臨の恵み～」(ヨエル書2章28節～32節、使徒の働き2章1節～11節)

「その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。」(2:28)。「すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。」(2:2-3)。

◎聖霊降臨の出来事とは何なののでしょうか？ 私たちにどのような関わりがあるのでしょうか？

◎預言者ヨエルは2章で「主の日」について預言しています。その日は審判と救い(回復)の日なのです。神様を知り礼拝している人々にとって、その日は祝福と回復の日となるのですが、神様に敵対する者にとっては破壊と荒廃の日となるのです。イスラエルの民が悔い改めた暁に、特定の人にしか注がれていなかった聖霊が、その日に、すべての人に「神の霊を注ぐ」との預言が語られ、ペンテコステの日に成就したのです。

◎使徒の働き2章は約束の聖霊降臨が起こった事の記事です。「五旬節の日になって」(1)とは「日が満ちて」です。聖霊降臨の出来事は神様の約束が成就したことなのです(ヨエル2:28-29,ルカ24:49,使徒1:4-5,8)。この「五旬節の祭り」はレビ記23:15-16に由来し、ユダヤ教の三大祭(過越の祭、七週の祭、仮庵祭)の一つです(過越祭の安息日の翌日から数え始めて満七週間を経た翌日まで50日を数えた)。その日に約束の聖霊が降ったのです。

①聖霊降臨の出来事は「みなが一つ所に集まって」祈っていた時に起こったのです(1,1:15,2:44,49)。私たちも主イエス様の約束を信じ、共に心を合わせて祈る群れでありたいと願っています(マタイ18:19-20)。

②「御霊が話させてくださるとおりに…話し出した」のです。それは「炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった」からです。炎は罪を焼きつくし、潔めると同時に愛を表わしています(ガラテヤ5:22)。「舌」は「言葉」を語る働きにも用いられます。ですから、相手の理解出来る言葉で証しする者と変えられたのです(ルカ12:11,12)。

③使徒の教えを大切に守り、愛の交わりが深められ、聖餐に与り、心を合わせて共に祈ったのです。教会が一致して神様を愛し、隣人に仕え、愛に生きる歩みをする事が証しとなるのです。その結果、日々仲間に加わる者が加えられたのです。私たちもそのような歩みに与る証し人とされるように祈り求めていきましょう。

◎最後に、ペテロが大胆に語った福音の内容は、①悔い改め、②洗礼、③罪の赦し、④聖霊の約束です。私達も自分の罪深さを知り、日々悔い改めと信仰をもって主イエス様の十字架を仰ぎ、聖霊を求め、日々、御霊に満たされ、教会生活を大切に、聖徒の交わりに与り、証しの生活をさせて頂きましょう。